

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科		看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名		小児期の疾患のアセスメントと看護		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年		2年次		学期及び曜時限	後期	教室名	各教室
担 当 教 員		服部明菜	他	実務経験とその関連資格	病院等で看護師として勤務		
《授業科目における学習内容》							
健康問題が子どもと家族に及ぼす影響について理解することができる。 主要症状・主要疾患に対する看護について学ぶとともに、子どもの疾病の経過や状況に応じた看護、特徴的な症状に対する看護について学ぶ。							
《成績評価の方法と基準》							
授業態度・出席状況(5%)、提出物(45%)、筆記試験(50%)で評価する。							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
系統看護学講座 小児看護学概論・小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院 系統看護学講座 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院 根拠と事故防止からみた小児看護技術 医学書院							
《授業外における学習方法》							
短時間で多くのことを講義しますので、これまでの講義で学習した関連項目(解剖生理、病態と治療、薬理学、小児看護学で学んだ小児の形態機能や倫理など)を復習する。							
《履修に当たっての留意点》							
子どもの成長・発達と健康障害について、子どもの特徴をふまえた症状に対する看護など専門的知識を得るために、教科書を用いて予習・復習を行い、自ら学ぶ姿勢を持ち、主体的に参加すること。							
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	子どもの各系統のアセスメントのポイントを述べることができる			教科書 AV機器他	身体計測の方法、子どもの成長・発達、この授業に関連する形態機能の特徴について予習する。
		各コマにおける授業予定	身体的アセスメント(身体計測、一般状態、眼、耳、顔面、口腔)				
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	子どもの各系統のアセスメントのポイントを述べることができる			教科書 AV機器他	子どもの成長・発達、この授業に関連する形態機能の特徴について予習する。
		各コマにおける授業予定	身体的アセスメント(呼吸、循環、腹部)				
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	子どもの各系統のアセスメントのポイントを述べることができる			教科書 AV機器他	子どもの成長・発達、この授業に関連する形態機能の特徴について予習する。
		各コマにおける授業予定	身体的アセスメント(筋骨格系 神経系、生殖器系)				
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	子どもの各系統のアセスメントのポイントを述べることができる			教科書 AV機器他	子どもの成長・発達、この授業に関連する形態機能の特徴について予習する。
		各コマにおける授業予定	身体的アセスメント(リンパ系、外皮系)				
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	子どもの機嫌や泣く意味を考える重要性を述べることができる			教科書 AV機器他	主要症状別の看護について、テキストを読み予習しておく。
		各コマにおける授業予定	子どもの主要症状と看護①(不機嫌、啼泣、痛み、呼吸困難、チアノーゼ)				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	ショックなど症状に応じた看護を述べることができる	教科書 AV機器他	主要症状別の看護について、テキストを読み予習しておく。
		各コマにおける授業予定	子どもの主要症状と看護②(ショック、意識障害、けいれん、発熱)		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	脱水など症状に応じた看護を述べることができる	教科書 AV機器他	主要症状別の看護について、テキストを読み予習しておく。
		各コマにおける授業予定	子どもの主要症状と看護③(嘔吐、下痢、便秘、脱水)		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	黄疸など症状に応じた看護を述べることができる	教科書 AV機器他	主要症状別の看護について、テキストを読み予習しておく。
		各コマにおける授業予定	子どもの主要症状と看護④(浮腫、出血、貧血、発疹、黄疸)		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	本授業における疾患の子どもと家族の看護を述べることができる	教科書 AV機器他	この授業に関連する疾患について復習しておくこと
		各コマにおける授業予定	先天異常(ダウン症候群)、代謝性疾患、消化器疾患の子どもの看護		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	本授業における疾患の子どもと家族の看護を述べることができる	教科書 AV機器他	この授業に関連する疾患について復習しておくこと
		各コマにおける授業予定	筋骨格系疾患(骨折)、循環器疾患、呼吸器疾患の子どもの看護		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	本授業における疾患の子どもと家族の看護を述べることができる	教科書 AV機器他	この授業に関連する疾患について復習しておくこと
		各コマにおける授業予定	悪性新生物、腎泌尿器疾患、神経疾患(てんかん)、眼疾患(斜視)の子どもの看護		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	各パターンの小児の情報およびアセスメントの視点について述べることができる	教科書 AV機器他	これまでの看護過程を想起しておく
		各コマにおける授業予定	小児の看護過程		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	事例の情報収集と情報の整理、情報の解釈・分析ができる	教科書 AV機器他	事例の病態生理・検査・治療の学習をしておくこと
		各コマにおける授業予定	各事例の看護過程の展開		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	事例の全体像(関連図)ができる	教科書 AV機器他	事例に対して看護のアセスメントをまとめておくこと
		各コマにおける授業予定	各事例の看護過程の展開		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	単位のまとめとして健康問題が子どもと家族に及ぼす影響と、主要症状・主要疾患・子どもの状況に応じた看護について説明することができる	教科書 AV機器他	これまでの学習内容を復習し、まとめておくこと。
		各コマにおける授業予定	まとめ		